

## 第1学年体育科学習指導案

日時：平成25年10月30日（水）5校時  
 場所：仙台市立岡田小学校 校庭（雨天時体育館）  
 仙台市立岡田小学校 1年 1組  
 指導者 教諭 柳 弘子

1 単元名 鉄棒を使った運動遊び（B 器械・器具を使つての遊び）

2 単元の目標

- (1) 鉄棒を使つて、支持しての跳び上がりや跳び下りをしたり、ぶら下がりや易しい回転ができるようにする。 (技能)
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (態度)
- (3) 鉄棒を使った運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶことができるようにする。友達のよい動きを見つめることができるようにする。 (思考・判断)

3 評価規準

(1) 内容のまとまりごとの評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
器械・器具を使つての運動遊びに進んで取り組むとともに、順番やきまりを守り仲よく運動をしようとしたり、運動をする場の安全に気を付けようとしたりしている。	器械・器具を用いた運動遊びの行い方を工夫している。	器械・器具を使つての運動遊びを楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。

(2) 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。</li> <li>・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。</li> <li>・友達と協力して、器械・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒を使った運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する器械・器具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。</li> <li>・器械・器具を使つての運</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転ができる。</li> </ul>

器具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動をする場や器械・器具の使い方などの安全に気を付けようとしている。	動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。	
--	--------------------------------	--

(3) 学習に即した評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
① 鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ② 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ③ 友達と協力して、鉄棒の準備や片付けをしようとしている。 ④ 運動をする場や鉄棒の使い方などの安全に気を付けようとしている。	① 鉄棒を使った運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する鉄棒などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見つけている。 ② 鉄棒を使つての運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。 ③ アドバイスや友達のよい動きを手がかりに一連の流れ（つなぎ）を工夫している。(第2学年時)	① 跳び上がって支持することができる。 ② 支持から跳び下りることができる。 ③ 両手でぶら下がったの振動ができる。 ④ 片膝をかけたの振動ができる。 ⑤ 腹をかけたのぶら下がりができる。 ⑥ 支持の姿勢から前に回って下りることができる。 ⑦ 両手でぶら下がって前後に足抜き回りをするることができる。 <b>※すべて補助具や踏み台を使ってもよい。</b>

4 指導に当たって

(1) 児童観

① 体育学習や運動への興味・関心、意欲等

男子9名、女子10名、計19名。男女仲が良く、外遊び（鬼ごっこや遊具遊び）を好む児童が多い活発なクラスである。体力・運動能力調査では、50メートル走や反復横跳びは良い記録が出ているが、長座体前屈は仙台市の平均以下であり、上体起こしでは、1回という児童も2名いる。肥満度が70%の児童が1名おり、雲ていにぶら下がることや鉄棒に飛び乗ることもできない。

かけっこやボール遊び、遊具遊び、表現活動には進んで取り組んでいる。跳び箱やマット運動、鉄棒では個人差が大きい、自分のできる技を楽しんだり、友達に教えてもらいながら挑戦したりしようとする児童が多い。

これまでは、児童の意欲や互いのコミュニケーションを高めるため、授業の導入で鬼ごっこや2人組、3人組でのゲーム、補強運動を行ってきた。

## ② 本單元における児童の実態調査

指導に先立ち、児童の実態調査をアンケート形式で集計するとともに、実際にできる運動遊びを調べた。(詳細は別紙1の通りである。)

保育所や幼稚園のときから、鉄棒を使った運動遊びに取り組む、「好き」と答える児童が多い。いろいろな動きができ、回ったり、逆さまになったりすることが楽しいと答えている。また、教え合いをする意識よりは、一人でこつこつ繰り返し何度も練習することで上達すると考えているようである。

その一方、「嫌い」と答えた児童は、鉄棒に対して「できない」「怖い」「痛い」という印象を強くもっているようである。そのため、できる動きも「好き」と答えた児童と比べると若干少ない傾向にある。ただ、できるようになりたいという意識は「好き」と答えた児童よりも強く、教え合いや本やカードを見ることが上手になるには大切だと考えており、ただひたすら練習せずに上手になるための効果的な練習方法を模索しているように受け止められる。

## (2) 単元観

### ① 一般的特性

- ・支持やぶら下がり、振動、回転などの様々な鉄棒遊びに取り組むことで、体を支える感覚やバランス感覚、逆さ感覚、回転感覚を味わえる運動遊びである。
- ・ぶら下がる感覚や振る感覚、逆さ感覚など非日常的な感覚が養われる運動遊びである。

### ② 児童から見た特性

- ・鉄棒に様々な姿勢でぶらさがったり、ぶらさがったまま体を振ったり、腕立てや足かけで鉄棒に上がったりおいたり、鉄棒を軸に回転したりすることができるかどうかがおもしろい運動遊びである。
- ・これまでできなかった動きに挑戦して、できるようになったとき、楽しさが増す運動遊びである。
- ・鉄棒から落ちる恐怖感を覚えたり、鉄棒で体を支えたり、体を振ったりする際に痛みを伴う場合がある。

### (3) 指導観

#### ① 指導者の願い

学級の実態として、体を動かすことを楽しみ、進んで活動する姿が見られ、励まし合ったり、教え合ったりする様子も見られるようになってきた。本単元は、回転感覚、逆さ感覚、バランス感覚など、自分の体をコントロールし、しなやかな動きを身につけるためにも大切な領域である。また、能力の個人差が大きく、得意・不得意がはっきり出る領域であるため、高学年になると能力、意識の差がより大きくなる。低学年から苦手意識を持たせないよう、動きを楽しむ学習としたい。

低学年は、「できた」ことにより、次への意欲へとつながることから、友達からの励ましや賞賛は、取り組む姿勢に大きく影響する。一人一人にめあてを持たせ、互いに励まし合い、認め合う場をつくっていくことで、多くの技に挑戦しようとする意欲を高めていこうと考える。

また、技や動きのポイントを分かり易く示すことで、自分ができる動きや技を楽しみ、そこから、新しい動きや技へとつなげていきたい。

#### ② 研究との関連

本年度の仙台市小学校教育研究会体育部会の研究目標は「児童のわかること・できることを大切にしたい体育学習の在り方～指導と評価の工夫を通して～」である。

それを受けて、第5地区では器械運動（マット・跳び箱・鉄棒運動）の「わかる」「できる」「かかわる」を以下のように定義付けた。

「わかる」	…「動きや技のポイントがわかる」						
「できる」	…「安定して技ができる」（連続して、スムーズに、少ない振動で）						
「かかわる」	… <table border="0"><tr><td>低</td><td>認め合う（励まし合う、褒め合う）</td></tr><tr><td>中</td><td>教え合う（できたか評価し合う、場を選び合う）</td></tr><tr><td>高</td><td>高め合う（練り合う、工夫し合う）</td></tr></table>	低	認め合う（励まし合う、褒め合う）	中	教え合う（できたか評価し合う、場を選び合う）	高	高め合う（練り合う、工夫し合う）
低	認め合う（励まし合う、褒め合う）						
中	教え合う（できたか評価し合う、場を選び合う）						
高	高め合う（練り合う、工夫し合う）						

「動きや技のポイントがわかる」とは、技の完成に必要な体の動きや動かし方について、どのようにすればできるようになるのかを具体的な言葉や表現で理解することである。簡単に「ポイントがわかる」ということにしたい。

「安定して技ができる」とは、昨年度から5地区で取り組んできた高い技の完成度を指した言葉である。一昨年度の5地区で目指した「再現できる」が「もう一度できる」のに対し、「安定してできる」は、取り上げる運動遊びや技の特性から、「大きく」「連続」「スムーズ」「少ない震動」というキーワードの一つを当てはめ、技がより高いレベルでできることを表す。6年間で「安定してできる」姿を目指す。

「かかわる」では、学年の発達段階によって分類している。低学年での「認め合う」とは、励ましの声かけや技ができたときやがんばったことに賞賛し合うことである。中学年の「教え合う」とは、技ができたかポイントを元に評価し合い、自分の力に合わせて場を選び合うことである。高学年の「高め合う」では、技の完成度を高めるために練習方法を練り合ったり、工夫し合ったりすることである。

③ 具体的な手立て

仙台市小学校教育研究会体育部会の研究の視点を受けて、5地区では以下のように手立てを設定した。

視 点	① 学習内容の系統性を踏まえ、単元全体を通した評価計画を明らかにする。	② 評価と連動した学習カードを工夫する。	③ 体育学習における言語活動の充実を図る。
手 立 て	A. 児童の実態を踏まえ、評価規準を設定する。 B. 単元の系統性を踏まえ、2カ年の指導計画を工夫する。	C. 運動遊びの一連の動きが分かる絵と運動遊びのポイントを明記する。 D. スモールステップを大切に、到達度が教師も児童も分かるようにする。	E. 児童同士で評価させ、言語活動が行われる機会を確保する。 F. 児童の実態を踏まえ、児童同士の言語活動をモデル化して例示する。

**A. 児童の実態を踏まえ、評価規準を設定する。**

児童の実態を見ると、鉄棒への意識やできる運動遊びの種類に個人差が大きく、どの児童も意欲的に学習に取り組ませるためには、児童へ「できる」「できた」という技能面での満足感をたくさん味わわせることが大切であると考え。そのため、踏み台や補助具を活用しても、「できた（学習に即した評価規準）」と評価し、鉄棒を使った運動遊びが「楽しい」と感じられるものにしたい。「Aと判断する学びの姿」は、踏み台や補助具を使わずとも運動遊びができ、「ある程度正確に回数も多く」取り組む姿に設定する。また、「Cの児童への手立て」は、教師が補助することで児童が一人で運動遊びができるようになるよう支援することであるとした。

**B. 単元の系統性を踏まえ、2カ年の指導計画を工夫する。**

本単元の「鉄棒を使った運動遊び」は、3・4年、5・6年での「鉄棒運動」につながる単元である。「鉄棒運動」においては、技の完成を目指し取り組むことになるが、本単元はあくまでもその前段階での運動遊びであり、児童一人ひ

とりが楽しく鉄棒を使った運動遊びに十分に組みこめるように考えた。

そこで、2カ年の計画を第1学年時の前半と、第2学年時の後半に分けて考えた。前半は、十分に運動遊びに取り組む時間と場所を保障して運動遊びに取り組ませ、後半により高い完成度の運動遊びへとステップアップしていけるように計画した。高学年には、技の組み合わせに取り組むことになるが、第2学年でも「跳び上がり、易しい回転、跳び下り」という「つなぎ」を考えて発表することを目標として取り組む2カ年の指導計画を立てた。

#### **C. 運動遊びの一連の動きが分かる絵と運動遊びのポイントを明記する。**

市販されている鉄棒遊びのカードの多くは、運動遊びをしている状態を絵に表しているが、それでは児童への情報は少ないと感じる。始める前と終わった後の姿も絵にして載せ、一連の動きが分かるカードを作成する。

また、運動遊びが上手にできるためのポイントを擬態語やオノマトペを使って明記することで、イメージを共有しやすいようにするとともに、教え合いにもつながるものと期待できる。

#### **D. スモールステップを大切に、到達度が教師も児童も分かるようにする。**

カードにはできたところに印を付けたり、シールを貼ったりできる欄を設ける。印やシールが付けば「できた」ということを教師も児童もはっきりと把握することができる。取り組ませる内容は、運動遊びのスモールステップを意識して作成したい。例えば、前回り下りであれば、初めは「くるっとまわる」で合格であるが、次は「ゆっくりおる」と少し難しくなるようにする。そうすることで、より完成度の高い上手な運動遊びへとステップアップしていけると考えるからである。

#### **E. 児童同士で評価させ、言語活動が行われる機会を確保する。**

5地区の考える低学年での言語活動は「認め合い」であり、具体的には「褒める」「励ます」ことに当たる。そこで、運動遊びができたかどうかを児童同士で評価させるようにしたい。そうすることで、「できた児童」には褒め言葉を、「できなかった児童」には励まし言葉を使うようになり、お互いのことを認め合えるようになると思う。

#### **F. 児童の実態を踏まえ、児童同士の言語活動をモデル化して例示する。**

低学年の言語活動として出てくる褒め言葉や励まし言葉は、あまり豊富でないと予想される。そのため、語彙を増やしていけるようにモデル化して例示する掲示物（コーナー）を教室に準備する。学習の中で使ったり、生活の中で発見したりした褒め言葉や励まし言葉をリンゴやバナナの形をしたカードに書き、大きな木に貼っていく。そうして、たくさんの言葉の実を集めていくようにする。褒め言葉や励まし言葉だけでなく、運動遊びのポイントを表す言葉やオノマトペなどへも広がっていくことを期待する。

5 指導と評価の計画

第1学年 単元名：鉄棒遊び 領域：器械・器具を使つての運動遊び 配当時数：4				
時間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準		
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
1	<p>学習の進め方を知り、とび上がり、支持、とび下りのある遊びに挑戦する。</p> <p>1 学習の進め方を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>2 学習カードの使い方を知る。</p> <p>3 グループごとにとび上がり、支持、とびおりの遊びに挑戦する。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	①		
2 (本時)	<p>ぶらさがりや振動のある遊びに挑戦する。</p> <p>1 準備運動・ストレッチをする。</p> <p>2 前時に学習した運動遊びを練習する。</p> <p>3 グループごとにぶらさがりや振動の遊びに挑戦する。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>		① ②	
3	<p>やさしい回転のある遊びに挑戦する。</p> <p>1 準備運動・ストレッチをする。</p> <p>2 前時まで学習した運動遊びを練習する。</p> <p>3 グループごとにやさしい回転のある遊びに挑戦する。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	④ ③		
4	<p>自分ができるようになった遊びの発表会を行う。</p> <p>1 準備運動・ストレッチをする。</p> <p>2 グループごとに今まで学習した運動遊びを確認し練習する。</p> <p>3 できるようになった運動遊びの発表会をおこなう。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	②		①～⑦

第2学年 単元名：鉄棒遊び 領域：器械・器具を使つての運動遊び 配当時数：4				
時間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準		
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
1	<p>学習の進め方を知り、いろいろな鉄棒遊びをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習の進め方を知り、学習の見通しをもつ。</li> <li>2 安全な補助の仕方を知る。</li> <li>3 補強運動をする。</li> <li>4 1学年で学習したいろいろな鉄棒遊びを練習する。</li> <li>5 本時のまとめをする。</li> </ol>	④   ①  ③		
2	<p>遊びのポイントを知り、友達と協力しながら遊びに挑戦する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 体操・ストレッチをする。</li> <li>2 補強運動をする。</li> <li>3 グループでいろいろな鉄棒遊びのポイントを確認しながら練習する。</li> <li>4 学習の振り返りをする。</li> </ol>		②	
3	<p>自分ができるようになった遊びの「つなぎ」を考え、挑戦する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 体操・ストレッチをする。</li> <li>2 補強運動をする。</li> <li>3 自分ができるようになった遊びのつなぎを考え、練習する。</li> <li>4 学習の振り返りをする。</li> </ol>	②	①	
4	<p>できるようになった「つなぎ」を発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 体操・ストレッチをする。</li> <li>2 補強運動をする。</li> <li>3 グループごとに、つなぎの遊びを発表しあい、リハーサルをする。</li> <li>4 発表会をする。</li> <li>5 学習の振り返りをする。</li> </ol>		③	①～⑦



6 本時の展開 (2 / 4時間)

(1) 本時の目標

○鉄棒を使った運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見つめることができるようにする。(思考・判断)

(2) 準備物 ・鉄棒用パッド ・踏み台

(3) 学習過程

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・評価 (☆)
1 整列・挨拶をする。(1分)	「グループごとに整列しよう。」
2 体操・ストレッチをする。(5分) ・肩回し ・背伸び ・手首 ・首 ・腕を後ろに回して背中を曲げず上へ	「腕はしっかりと伸ばそうね。」 「ゆっくり大きく回すよ。」
3 前時までにできるようになった運動遊びを行う。(5分)	・できた子は、前時の学習カードの『できるかな』に印をつけさせる。 「できた子は長く鉄棒に乗ったり、遠くにとび下りたり、下りるとき回ってもいいよ。」 →工夫した子を随時取り上げ褒める。
4 本時のめあてを確認する。(1分)	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ぶらさがりの運動遊びをたくさんしよう！</div>	
5 学習活動の見通しを持たせる。(3分)	「今日は、ぶらさがりの運動遊びをたくさんしよう！」 ①取り組む運動遊びとそのポイントをカードで確認 (4種類) ②見ている児童ができたか評価 ③できた児童はカードに印を付け赤帽子に。 ④赤帽子の子は工夫 (発展) へ
6 本時の運動遊びに順に取り組む。(25分) ① なまけもの (ふとんほし) 【二人ずつ】 ② オラウータン (ブランコ) 【二人ずつ】 ③ さる (おさるさん) 【一人ずつ】 ④ ぞう (片ひざ掛けふり) 【二人ずつ】	・児童同士の認め合いや励まし合いを促しながら、運動遊びのポイントを確認して回る。 できた児童は運動遊びを工夫させる。 ・できない児童には、「(4) 評価 Cの児童への手立て」を行う。

<p>7 本時のまとめをする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どんな運動遊びができるようになったか学習カードを使って振り返る。</li> <li>• 児童同士の「認め合い」「褒め合い」の言葉を集める。</li> </ul>	<p>(なまけもの指導時の声がけ例)</p> <p>『なまけもの』の時には、手と足がどうなっているかな?」(ポイントへの着目)</p> <p>「友達の手と足がブラーンとなっていたら、たくさん褒めてあげようね。」</p> <p>(評価のタイミングの例示)</p> <p>「できた子は、手足を振るなどちがった動きをたしてみよう。」(工夫へのなげかけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 工夫した運動遊びをしていた児童を見つけさせる。</li> <li>• 見つけられない場合は教師が工夫した児童を指名して気付きを促す。</li> <li>• どんなところがよかったか、児童に考えさせ、発表させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆ (1) 本時の目標 (思考・判断)</p> <p style="text-align: center;">【観察・学習カード】</p> </div> <p>「なまけものに印がついた人！」</p> <p>「いろんななまけものもできた人はいるかな！」</p> <p>「友達に言われてうれしかった言葉はあるかな。」</p> <p>「教室に戻ったら、できた友達の数だけ、掲示板に貼ろう。」</p>
---	--

(4) 評価

学習活動に即した評価規準	Aと判断する学びの姿	Cの児童への手立て
鉄棒を使った運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見つげることができる。	鉄棒を使った運動遊びの行い方を知り、自分からよい動きをしたり、友達のよい動きを見つけたたりできる。	教師が補助をしたり、学習カードで示したり、個に応じたスモールステップを踏ませたりする。

(5) 場の構成

1 班	2 班	3 班	4 班	5 班	6 班
鉄棒 1 (中)	鉄棒 2 (中)	鉄棒 3 (低)	鉄棒 4 (低)	鉄棒 5 (低)	鉄棒 6 (低)

指導案作成者

氏名	所属 小学校	5地区内 役割	作成担当箇所	5地区 研究学年部
遠藤 雅範	原 町	地区長	指導計画・本時	高
高泉 範行	松 森	研究班長	関わり合い	中
工藤 優	向陽台	研究副班長	学習カード	高
猪股 輝	東仙台	研究班（常任委）	評価規準	高
竹下 修央	中 野	研究班員	指導計画・本時	低
小寺 正洋	榴 岡	研究班員	関わり合い	低
武田 周平	新 田	研究班員	評価規準	低
大沼 絢佳	高 砂	研究	学習カード	中
藤田 隆	幸 町	研究	学習カード	高
齋藤 毅	鶴が丘	研究	学習カード	低
佐藤 慎吾	岡 田	研究	指導計画・本時	高
宮崎奈々瀬	福 室	研究	指導計画・本時	中
鈴木 伸和	田 子	実践班長	関わり合い	高
佐藤 賢一	鶴 卷	実践副班長	評価規準	高
佐伯 修一	宮城野	実践班員	関わり合い	高
千葉 史之	中野栄	実践班員	評価規準	中
針生 崇	幸町南	実践	指導計画・本時	低
佐々木かおり	岩 切	実践	関わり合い	中
森 俊樹	泉松陵	実践	学習カード	中
柳 弘子	岡 田	授業協力	—	—